

新規事業評価調書

【ほ場整備事業】

洲本市 つ し おおみや 都志大宮地区

農政環境部農林水産局
農地整備課

事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農整備課長 石井龍太郎 (基盤整備班主幹 高林主佳)	内線	4003 (4014)
------	---------------------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	地区名	総事業費 (内用地補償費)	4.3億円 (0.3億円)																		
		農地整備事業	都志大宮地区 <small>つし おおみや</small>																				
所在地			事業採択 予定年度	着工予定年度	完成予定年度																		
洲本市五色町都志大宮			H29	H29	H33																		
事業目的			事業内容																				
<p>本地区は、洲本市北西部に位置し、たまねぎなどの野菜作が一部行われており、野菜の生産拡大を進めたいが耕作条件が悪く、取り組みにくい状況にある。</p> <p>ほ場整備により農作業の省力化等を図り、野菜の生産拡大を行うとともに、集落営農組織への農地利用集積により効率的かつ安定的な農業経営を実現する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 区画整理 20.1ha ・ 事業主体 兵庫県 <p>[負担割合 国：55%、 県：27.5% 市：10%、 地元：7.5%]</p>																				
評価視点		評価結果の説明																					
(1) 必要性		<p>本地区は、緩傾斜地（主傾斜 1/67）ではほ場の区画が小さく不整形なうえに農道が狭いことから、機械化を進めることが困難である。また、地区内の水路は、ほとんどが用排水路兼用であり、老朽化も激しく、漏水対策や配水管理などの水管理に多大な労力を要している。</p> <p>このような状況の中、農地の保全を図るとともに野菜の生産拡大を行い、力強い農業経営を展開していくためには、農作業の機械化や水管理の省力化を図る基盤整備が必要である。</p>																					
(2) 有効性・効率性		<p>労働時間の短縮による担い手の育成、作物生産の増加</p> <p>①有効性</p> <p>ア 事業効果</p> <p>a) ほ場整備及びこれに伴う農業機械の導入による労働時間の短縮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10a 当たりの労働時間 水稲 37.2hr → 15.1hr (59%減) <li style="padding-left: 40px;">たまねぎ 79.9hr → 38.4hr (52%減) <p>b) 担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手数 (認定農業者) 1 経営体 → 3 経営体 (2 経営体増) <li style="padding-left: 40px;">(その他 中心経営体) 1 経営体 → 0 経営体 (認定農業者へ) <p>※認定農業者の増のうち 1 経営体は、ほ場整備を契機に設立した大宮営農組合 (法人化予定)、 既認定農業者は畜産 (肉用牛肥育) 主体の農家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手への農地集積 1.4ha → 17.1ha (集積率 85%) <p>※人・農地プラン策定済 (H28.2)</p> <p>※農地集積に当たっては、農地中間管理事業を活用予定</p> <p>【担い手への農地集積計画】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">現況 (H28)</th> <th style="text-align: center;">計画 (H33)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担い手数</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>担い手の経営面積 ① (地区外を含む経営面積)</td> <td style="text-align: center;">1.4ha (3.0ha)</td> <td style="text-align: center;">17.1ha (19.2ha)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">内、営農組合の経営面積 (地区外を含む経営面積)</td> <td style="text-align: center;">- (-)</td> <td style="text-align: center;">15.3ha (15.3ha)</td> </tr> <tr> <td>担い手以外の経営面積 ②</td> <td style="text-align: center;">20.3ha</td> <td style="text-align: center;">3.0ha</td> </tr> <tr> <td>計 (①+②)</td> <td style="text-align: center;">21.7ha</td> <td style="text-align: center;">20.1ha</td> </tr> </tbody> </table>					現況 (H28)	計画 (H33)	担い手数	2	3	担い手の経営面積 ① (地区外を含む経営面積)	1.4ha (3.0ha)	17.1ha (19.2ha)	内、営農組合の経営面積 (地区外を含む経営面積)	- (-)	15.3ha (15.3ha)	担い手以外の経営面積 ②	20.3ha	3.0ha	計 (①+②)	21.7ha	20.1ha
	現況 (H28)	計画 (H33)																					
担い手数	2	3																					
担い手の経営面積 ① (地区外を含む経営面積)	1.4ha (3.0ha)	17.1ha (19.2ha)																					
内、営農組合の経営面積 (地区外を含む経営面積)	- (-)	15.3ha (15.3ha)																					
担い手以外の経営面積 ②	20.3ha	3.0ha																					
計 (①+②)	21.7ha	20.1ha																					

c) 野菜等の作付面積・生産量の増加

- ・たまねぎ 5.0ha 増、280 t 増 (2.4 倍増)
- ・ピーマン 0.5ha 増、36 t 増 (3.5 倍増)

【作付計画】

(単位: ha)

区分	本地面積	水田						畑 たまねぎ	延べ作付面積	農地利 用率
		水稻	たまねぎ	ピーマン	いちご	WCS	牧草			
現況	19.7	12.5	2.4	0.2	0.6	1.3	1.1	1.2	19.3	98%
計画	18.2	12.0	7.3	0.7	0.6	1.3	1.1	1.3	24.3	134%
増減	△1.5	△0.5	+4.9	+0.5	+0.0	+0.0	+0.0	+0.1	+5.0	+36%

※ 農地利用率=延べ作付面積/本地面積

イ 費用便益比

(総便益額B) / (総費用C) = 541 百万円 / 382 百万円 = **1.42**

(単位 千円)

総便益額 (B) ※1		総費用 (C) ※2	
営農経費節減効果	392,056	当該事業費 (現在価値化換算後)	351,064
作物生産効果	130,258	評価期間における予 防保全費・再建設費	64,182
品質向上効果	24,079	評価期間終了時点の 資産価値	△33,571
維持管理費節減効果	※3 △87,146	/	/
耕作放棄防止効果	466		
公共用地創設事務節 減効果	4,212		
国産農産物安定供給 効果	76,642		
計	540,567	計	381,675

※1 総便益額とは、評価期間45年(当該事業の工事期間5年+40年)に発現する効果

※2 総費用とは、評価期間45年で必要な工事費と維持管理費等

※3 農道舗装等に伴い管理施設が増加することから、マイナス便益となる

② 効率性

単位面積当たり事業費の妥当性

単位面積当たりの事業費は、建設残土の利用等によりコスト縮減を図ることとしており、洲本市における他地区と比較し、安価な整備である。

	ほ場整備計画 (ha)	事業費計 (千円)	10a当たり 事業費 (千円)
洲本市他地区※			2,651
都志大宮地区	20.1	427,000	2,124

※洲本市で過去10年以内に完了したほ場整備事業地区の平均事業費

<p>(3) 環境適合性</p>	<p>専門家による現地調査において、ほ場等に生息する次の希少種が確認されており、これらの生息空間を確保するための対策を講じる。</p> <p>また、畦畔管理のための設置足場や事業看板等に県産木材を活用する。</p> <table border="1" data-bbox="435 306 1461 613"> <thead> <tr> <th>主な希少種</th> <th>レッドデータ等のランク</th> <th>対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒメマルマメタニシ</td> <td>兵庫県：Cランク</td> <td rowspan="3">工事中は地区外に待避させ、排水路の一部に深みやよどみを創設し、生息環境を確保</td> </tr> <tr> <td>メダカ</td> <td>兵庫県：要注目種 環境省：絶滅危惧種Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td>シマヒレヨシノボリ</td> <td>環境省：準絶滅危惧種</td> </tr> </tbody> </table>	主な希少種	レッドデータ等のランク	対策	ヒメマルマメタニシ	兵庫県：Cランク	工事中は地区外に待避させ、排水路の一部に深みやよどみを創設し、生息環境を確保	メダカ	兵庫県：要注目種 環境省：絶滅危惧種Ⅱ類	シマヒレヨシノボリ	環境省：準絶滅危惧種
主な希少種	レッドデータ等のランク	対策									
ヒメマルマメタニシ	兵庫県：Cランク	工事中は地区外に待避させ、排水路の一部に深みやよどみを創設し、生息環境を確保									
メダカ	兵庫県：要注目種 環境省：絶滅危惧種Ⅱ類										
シマヒレヨシノボリ	環境省：準絶滅危惧種										
<p>(4) 優先性</p>	<p>地元集落では、傾斜地の小規模不整形農地に耕作放棄が発生してきた中、ほ場整備を契機に集落営農組織を設立して法人化し、たまねぎやピーマン等の野菜増産に取り組もうとする機運が高まっている。</p> <p>「ひょうご農林水産ビジョン2025」に掲げる第1の施策項目「野菜等園芸作物の生産拡大」を先導する優先性の高い地区である。</p> <p>関係戸数 42 戸の事前同意率 100%</p>										

(注) 図面等を参考として添付すること

平成29年度新規採択希望 農地整備事業 都志大宮地区 位置図

縮尺 1/25,000



播磨灘

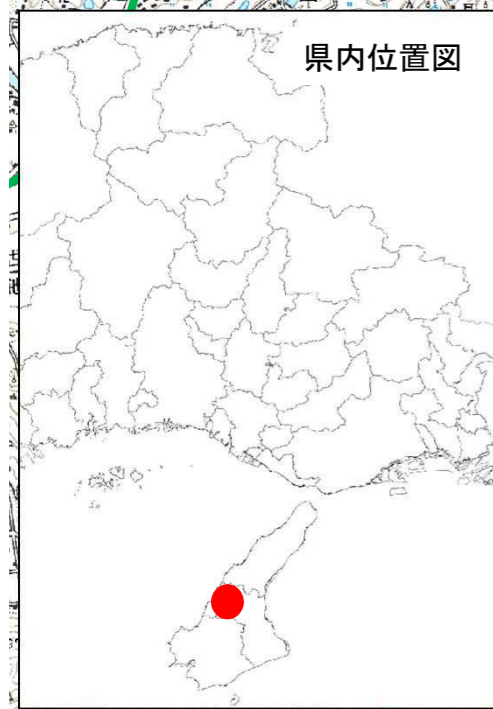
都志港

都志大宮地区

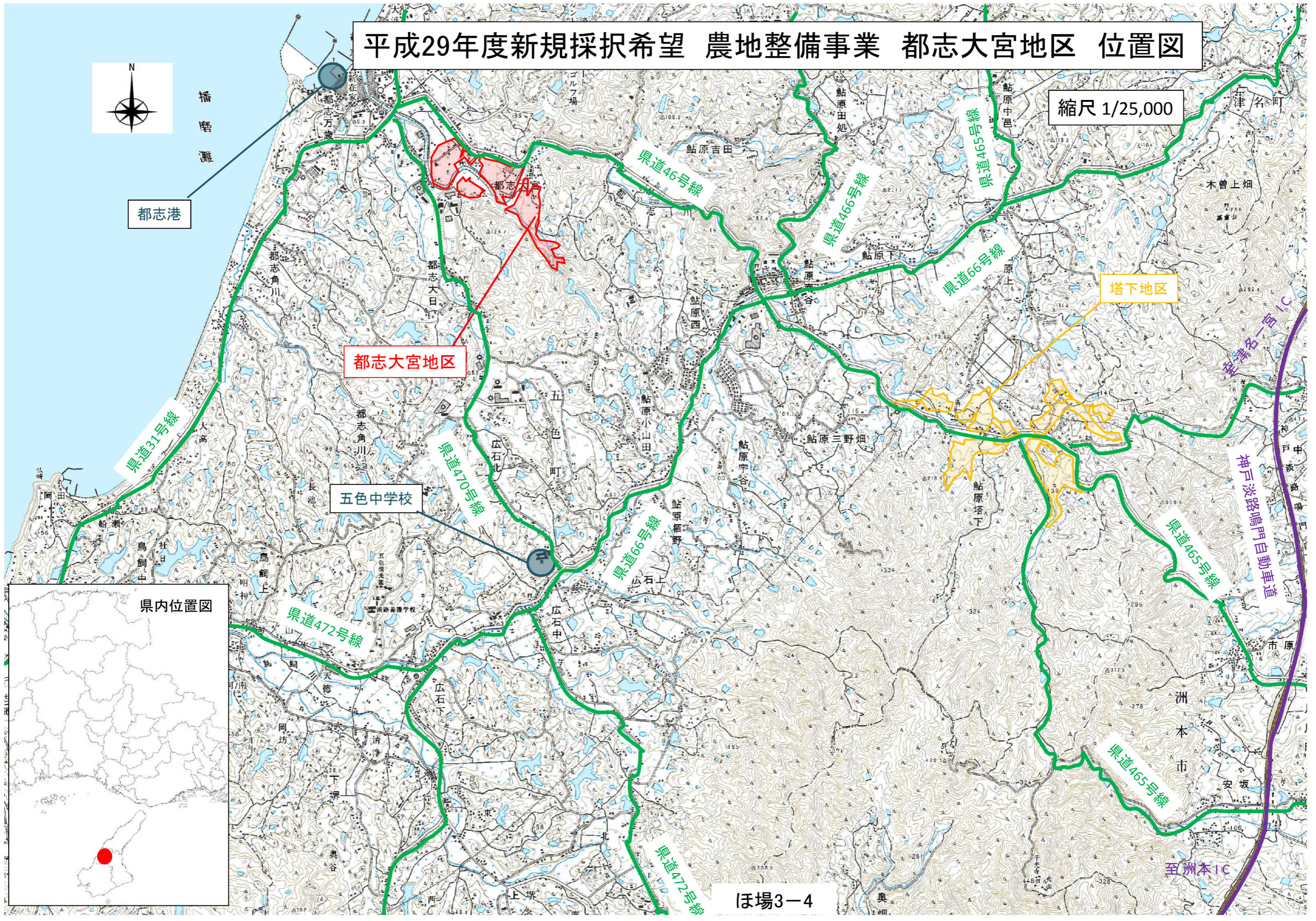
塔下地区

五色中学校

県内位置図



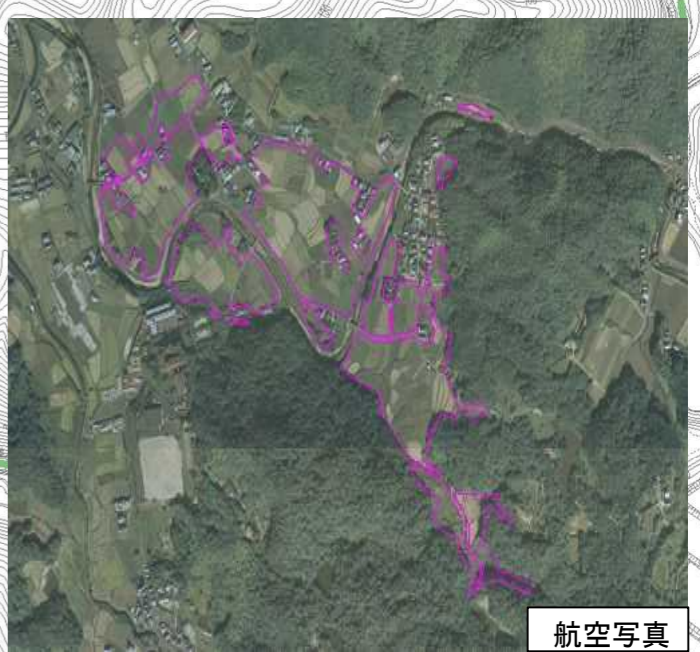
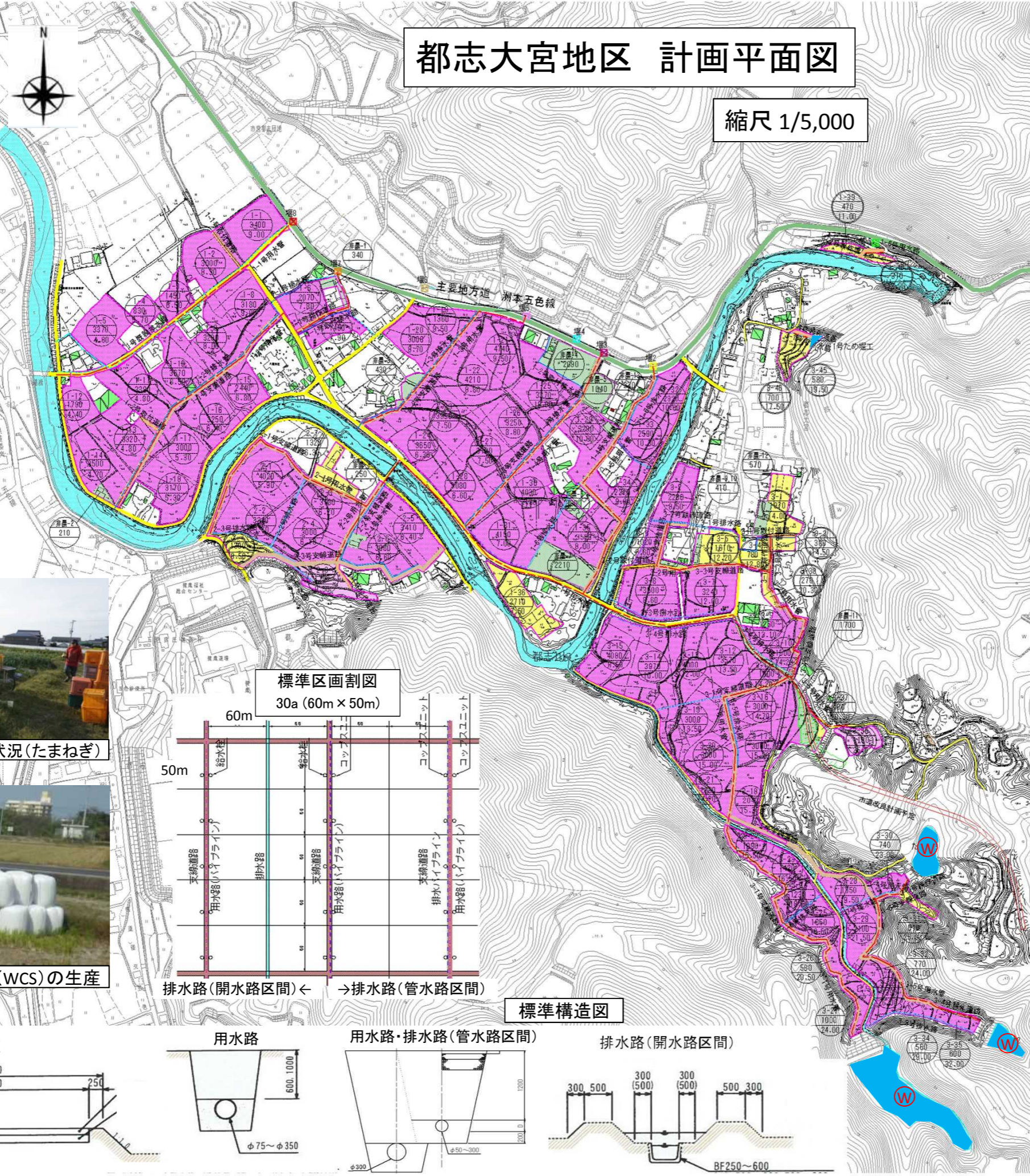
ほ場3-4



凡 例	
	田畑輪換田
	永久畑
	非農用地
	支線道路
	支線用水路
	支線排水路
	国道
	県道
	市道
	河川
	ため池

都志大宮地区 計画平面図

縮尺 1/5,000



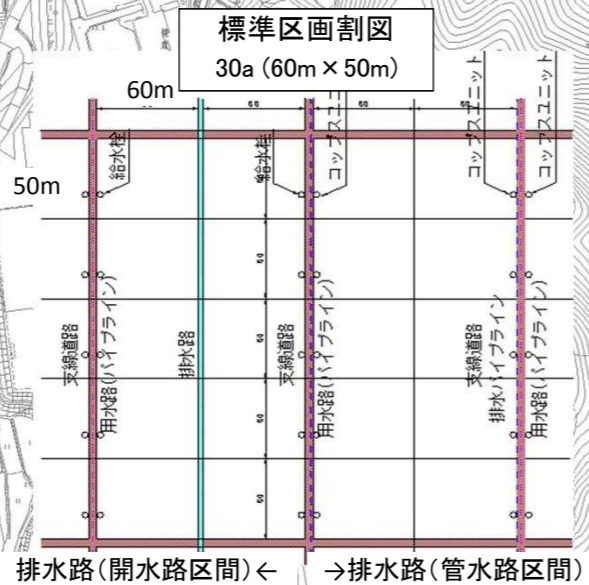
航空写真



狭小・不整形な区画



営農状況(たまねぎ)



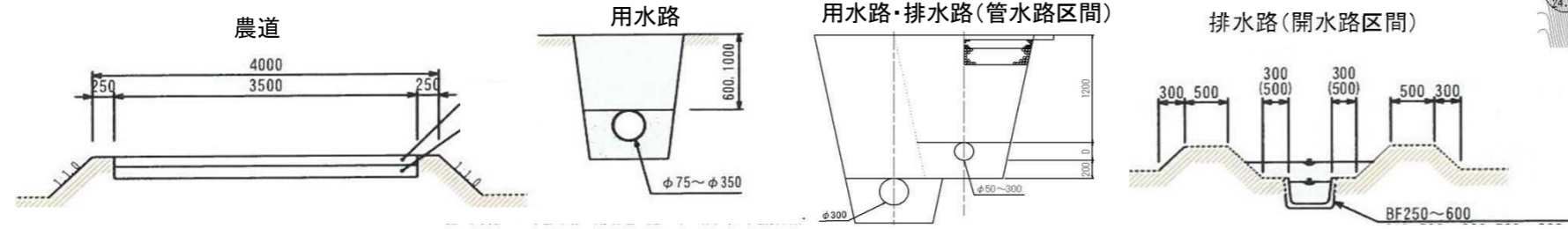
稲発酵粗飼料(WCS)の生産



W= 1.8m

狭い農道

標準構造図



老朽化した用排兼用水路

1 スケジュール

工種	H29	H30	H31	H32	H33
実施設計	■				
区画整理工		■	■	■	■
その他(換地)	■				

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 総便益(B)の項目

事業	B(総便益)	算出方法
ほ場整備	① 営農経費節減効果	区画拡大や道路・水路整備による農業機械の中型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果
	② 作物生産効果	ほ場整備により農業機械導入が可能になることや田畑輪換が容易になることに伴い、作付面積や収量が増加する効果
	③ 品質向上効果	農道舗装により出荷する農産物の荷痛みが防止されることに伴い、品質が向上する効果
	④ 維持管理費節減効果	ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果(新規整備の場合、施設数が増加することから、マイナス効果となる)
	⑤ 耕作放棄防止効果	ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果
	⑥ 公共用地創設事務節減効果	区画整理及び換地による公共用地創設に伴い、公共用地を取得する用地買収事務に係る経費が節減される効果
	⑦ 国産農産物安定供給効果	国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果(農林水産省アンケート調査結果をもとに算定)

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(総便益)		C(総費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	※事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
ほ場整備	農地整備事業	① 営農経費節減効果	392	労働時間の短縮(水稲) 37.2→15.1時間/10a	382	317	64	1.42
		② 作物生産効果	130	作付面積の増加 たまねぎ等5.5ha増				
		③ 品質向上効果	24	品質の向上 たまねぎ2%、いちご4%				
		④ 維持管理費節減効果	△87	施設整備による管理費増 農道舗装の増				
		⑤ 耕作放棄防止効果	0.5	将来発生が予測される耕作放棄を防止				
		⑥ 公共用地創設事務節減効果	4	市道用地の創出				
		⑦ 国産農産物安定供給効果	77	国産農産物の安定供給増				
		計	541					

注1) 費用便益比算定:「土地改良事業における経済効果の測定方法について」(農林水産省構造改善局長通達)による

注2) ※事業費は、当該事業費+事業着手時点の既存施設資産価値-評価期間(45年)終了時点の施設資産価値

注3) 四捨五入により計が合わない場合がある

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ・ 県土の保全(地下水のかん養、農地・農村における災害の抑制)
- ・ 農村の活性化
- ・ 地域交通の利便性の向上